

千代田まちづくり サポート通信

2019
10
OCTOBER

2019 OCTOBER ISSUE

NO.34

PICK UP!

海老原商店／海老原 義也氏

第16回(2016年度)千代田まちづくりサポート・音請部門の採択を受けて改修された海老原商店と海老原商店を活かす会代表の海老原義也さん。建物は昭和3年(1928)竣工。神田須田町の看板建築として親しまれ、現在さまざまな地域イベントの拠点として活用されている。



まちづくりをがんばる ひとを応援する ちよだのまちサポ

千代田というと、きれいなオフィス街やお濠の自然などに目がいきがちですが、
地域のためにがんばる人たちの多様なまちづくり活動が、東京の都心にある千代田区の魅力を支えています。
今年で19回目を数える「千代田まちづくりサポート」は、
千代田区でまちづくりをがんばる人たちを応援するための助成制度です。
本号では、令和元年（2019年）の公開審査会のプロセスを紹介しながら、
千代田のまちづくりの「いま」を伝えていきます。



PROCESS 公開審査のプロセス

7/20 「公開審査会」で8グループへの助成を決定

第19回千代田まちづくりサポート公開審査会は、令和元年7月20日(土)にちよだプラットフォームスクウェア5階(千代田区神田錦町3-21)で開催された。「一般部門8グループ」と前年度から継続審査となっている「普請部門1グループ」のほか、書類審査により助成が決定している「はじめて部門2グループ」の合計11グループが、それぞれのまちづくり活動の内容を発表した。審査の結果、8グループに総額756万円の助成を決定した。

PRESENTATION 堂々とした発表ぶり

応募グループの発表は、実績と成果を交えた堂々としたものから、未知の経験へ勇気を持って踏み出す初々しいものまで、それぞれのグループの特徴を垣間見ることができた。発表3分・質疑応答5分の限られた時間の中では伝えたい思いが収まりきらず、途中で時間切れとなってしまうグループもあった。はじめて部門の発表は、すでに助成が決まっているだけに余裕が感じられ、「はじめて部門？5万円でいいの？」という声も聞かれた。発表のトリは普請部門で、事業の持続性について確認できないため継続審査となっていたグループが、融資決定と建築確認の認可を報告した。発表時間を5分以上残し、休憩後の審査会委員からの審査結果を待つことになった。

VOTING シールの色に一喜一憂

一次審査の投票では、各審査会委員が応募8グループのすべてに対し、「活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要」=赤、「活動内容についてもう少し話を聞きたい」=黄、「サポート助成にはなじみにくい」=青、のいずれかのシールを貼っていく。今回は、3グループが赤7票(満票)を獲得し、その他の5グループの票が割れた。追加質疑に対して、各グループは、1枚でも多く黄色を赤色に変えるべく、熱意と工夫で活動の意義を訴えた。

審査会委員：
中島直人会長・奥村玄副会長・片岡勝吾・
柿内健介・朝比奈ゆり・小田和夫・依田昭夫

RESULT 一般部門5グループと普請部門の助成決定

二次審査では、各審査会委員が「活動を支持する」=緑を4票持ち、助成したいグループに貼った。「ちよとも」(6票)・「神田をワインの街にしようの会」(5票)・「エンターテイメント型保育」(5票)・「Chee's」(4票)・「江戸長唄ごひいき衆」(4票)の5グループが過半数の票を獲得し、助成が決定した。その後、審査会委員が算定した助成金額が発表された。併せて、普請部門「『神田珈琲園』再生プロジェクトチーム」へ500万円の助成決定が発表された。張りつめていた審査が終わると、会場は和やかさを取り戻していった。各審査会委員からは、審査で選ぶことの難しさや意外な展開が見えそうな活動への期待、さらに将来自立して巣立っていくことを期待するなどの講評が聞かれた。

部門	助成回数	グループ	一次審査			二次審査		
			活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える	活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい	意義ある活動内容だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考え	活動内容を支持する	申請額(万円)	助成額(万円)
一般	3	Chee's	●●●●●●●●			●●●●●	48	48
一般	3	一般社団法人神田をワインの街にしようの会	●●●●●●●●			●●●●●●	50	50
一般	2	江戸長唄ごひいき衆	●●●●●●●●			●●●●●	50	50
一般	1	ちよとも	●●●●●●●●	●		●●●●●●●	48	48
一般	1	街角ライブ振興会		●●●●●●●●		●	50	0
一般	1	エンターテイメント型保育	●●●●●●●●	●		●●●●●●	50	50
一般	1	CCxTokyo(千代田で遊ぶ会)	●●●●●●●●	●●●●●●●●		●	15	0
一般	1	上智日比谷発信プロジェクト	●●	●●●●●●●●		●●	50	0
普請	—	「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム	経過報告の結果、助成決定				500	500
はじめて	—	サンサン会	書類選考				5	5
はじめて	—	スプーン・プロジェクト					5	5

PRESENTATION/ Q&A!

まちをおもしろくする
魅力的なプロジェクトが
発表されました！



一般部門
3回目

千代田で感じたことをみんなでChee's(地図)にする Chee's



千代田区のいい所を地図にまとめ発信し続けるため、今年は「①WEBメディア『Chee's(チーズ)』のサイトをリニューアルし、より見やすくする。②他主体との連携事例を増やし、活動が継続できる体制を整える。③イベントの参加者や地元の在住者が街歩きをしたくなるような地図を作成し、千代田の魅力を伝える。」を進めたい。これまでの活動で、多くの地図を蓄積できたので生かしたい。例えば、神田・日本橋ワイン祭りや海老原商店などの周辺お勧めスポットやイベント情報を追加した「千代田いい所マップ」を作成するなど。他団体との連携としては、共立女子大学「千代田区子ども検定」があり、区のクイズが楽しめるWEBデザインを担当する。

Q：ITエンジニアに頼らない体制とのことだが、助成が終了したらどうするのか？
A：デザインなどで対価を得られるような連携先との信頼関係を作り、来年以降も継続して活動したい。
Q：「自己資金10%」の収支計画は難しいと思うが、頑張してほしい。
A：最初はイベント情報の発信は無料で行うが、いずれは掲載料をもらえるような訴求力をつける。
Q：サイトの反響や活動の広がりはあるか？
A：毎日更新しているインスタグラムの写真が好評を得ており、それを見て、メンバーに加入してくれた人もいます。

一般部門
3回目

神田をワイン色にして、あたたかな人のつながりのある街にするプロジェクト 一般社団法人 神田をワインの街にしようの会



神田駅前ではワイン祭りを行う。神田駅は整備され綺麗になったが、大手町・日本橋に挟まれ秋葉原のような特徴もないため、ワインを中心にしてコミュニティを作りたい。世界中で造られ飲まれているワイン。ボトル1本は一人より皆でシェアして飲むのが楽しいし、種類も豊富、ウंचクもあって話のネタになり、人をつなげる力がある。お祭りではグッズ作り、汚れたトイレや街の清掃活動も行う。それに加えて、神田駅近くの今川中学廃校跡地でぶどうの栽培を開始。棚作りから始め、今年ぶどうが実った。オリジナルの「神田ワイン」を造りたい。課題は、参加店舗や人手が不足していること。年々参加者も減り、運営も大変なため、地域を巻き込んで活動したい。

Q：「神田ワイン」はいつ頃飲めるのか？
A：再来年のイベントの時に無料で試飲できるようにしたい。
Q：参加費3千円で、どんなシステムなのか？
A：ワイン無料提供が20～30の店舗で楽しめる。各店舗の料理の味も別料金で知ってもらおう。
Q：「神田ワイン」の醸造はどうするのか？
A：山梨の酒造メーカーから指導を受け、そちらのワイナリーで醸造する。
Q：まちづくりにも関連する活動を期待したい。
A：参加者にワインの講習会などを開き、店の手伝いボランティアを育てる。

一般部門
2回目

三味線の音が響く粋なまちづくり
～長唄をきっかけにつながる、広がる～

江戸長唄ごひいき衆



長唄を通じて、江戸・東京の伝統や文化を知り、まちに親しむ機会を作りたい。昨年は九段生涯学習館で文化講座と三味線体験を実施、また神田プロレスとコラボし、リング上で長唄を披露。まちのイベントでトークやライブを行い、長唄・三味線のコミュニケーションとしての機能を実践できた。長唄の力は、大勢の合奏で一体感が得られ、互いに教え合う練習過程で世代や国籍を超えて交流でき、人とまちのつながりが生まれること。長唄の歴史や習俗を学び、その土地柄や地形の来歴などを知り、地域に愛着を持つ。今年は、地域課題である防災やマンションのコミュニティ作り、高齢化問題などに着目し、地域連携を重点的に進めたい。文化講座や三味線体験、発表会も開く。

Q：麹町区民館で開催した「半蔵門で月見の宴」での参加者の在勤・在住者の割合は？
A：マンションが多いので住民が中心。旧住民の方からのお誘いで麹町小学校の昔の様子や自然環境、防災の話を学び、課題を探った。
Q：区の小・中・高校などで、授業として長唄を行うのは？
A：授業だけでなく、大人を含め子どもたちに親しんでもらいたい。アプローチの仕方が課題。
Q：長唄で、昔の「大火」に関連するものはあるか？
A：幕末の大火の後にできた長唄があり、九段生涯学習館の講座で取り上げた。

一般部門
1回目

千代田で楽しくつながり創り 楽しく / 承認しあう / 安心の場 ちよとも



対談形式のワークショップを2年間開催、延べ300人以上が参加。毎月バラエティに富んだテーマで語り合う。「少子高齢化のメリットを楽しむ」には、高校生から80代の高齢者までが参加。「誰にでも開かれた居場所」と言われた。参加者が「ちよだ生涯学習カレッジ」やボランティアセンターのイベントに参画するなど、「ちよとも」経由のネットワークが広がっている。応募の理由は、ホームページを開設し広報に力を入れていきたいため。8月から「千代田の魅力を発信する」というラジオを始めた。また、話し合いの結果もレポートでまとめ、ホームページにアップして誰でも閲覧できるものにする。千代田に関わる人々の生の声を活動に生かしていくサイクルを創りたい。

Q：気楽に入れる場、そのハードルを下げる工夫は？
気楽さを強みにしてほしい。
A：メンバーの仲が良く、必ず開始前に初めての方には声を掛け、付き添い、おもてなしの気持ちを伝えるようにしている。
Q：応募用紙に記載している「謝金」の使い道は？
A：講師への謝金。身近な問題を話してもらい、運営の学習も気楽に学べる環境を作りたいと考えている。
Q：既存の町会との接点はあるのか？
A：町会に属していない人たちがコミュニティへ参加する最初の一步になればうれしい。課題もあるが、別の切り口で、受け皿になりたい。

一般部門
1回目

閑散期の飲食店をエンターテインメントで盛り上げる 街角ライブ振興会



投げ銭ライブ「神田村ライブ」を企画し、昨年10月から活動している。今年のGWは10連休で、オフィス街である神田近郊の飲食店は閑散とした。苦境に立ち向かう飲食店のために、「Deepon 神田はしご酒」を併せて企画した。10日間で31店舗が参加、1店舗で1杯飲めるチケットを店舗やwebで販売。街を回遊してもらう導線を作る。7月までの実績として、17店舗で計70本のライブを実施。飲食と音楽の相乗効果で飲食以外の来客も誘致したい。夏のお盆休みも要望があり、アーティストと店のコラボで「神田はしご酒 夏の陣」を開催し、休日でも人の集まる街にしたい。今後の活動に向けて広告費や印刷物の製作費、広報費などのご支援をいただきたい。

Q：「投げ銭ライブ」の運営の仕組みは？
A：観客がライブのミュージシャンに投げ銭した金額の10%を、会の運営費に充てる。
Q：お店側の効果やメリットは？
A：音楽が流れてふらっと来る客もいる。店を連休で閉めるのはつらいので助かっている。
Q：応募用紙に記載している「協力団体」の役割は？
「賃借料」の使い道は？
A：販売システムや広報で協力。事務所にかかる賃借料。
Q：GWの集客数は？また目標の数はあるか？
A：チケット無しでも入店できるので、全体数は不明。

一般部門


1回目

公演中に劇場のロビーで子どもを預かる、
エンターテインメント型預かり保育

エンターテインメント型保育 (略称: エンタメ保育)

役者をやっている。子どもができ、区内に預かり保育の場が少ない状況を実体験。児童館の一時預かりにも料金がかかる。何とかしたいと、新保育学会認定校に通い「チャイルドマインダー」の資格を取った。0歳～12歳までの子ども4人までを預かることができる。現在区内の保育園数か所に非常勤で勤務。同時に劇場などで観劇する親のための預かり保育をしたいと考えた。劇場のロビーなら時間の効率も良いし親の気持ちもいっそう楽になる。また子育て中のダンサーや役者も、出演はできなくてもスキルを生かして、自分の子どもを連れて劇場で保育をしながら、子どもたちに演技やダンスのワークショップができる。子どもたちも親の観劇と近い体験ができる、そんなエンタメ保育をやりたい。

Q：今年の活動予定は？
A：保育の資格者を集め、千代田区の劇場からスタートしたい。
Q：劇場内に、保育可能なスペースを確保できるのか？
A：小劇場は無理だが、ロビーにウレタンマットを敷いてスペースを作る。
Q：「利用者の会員登録」とは？周知方法は？
A：健康状態やアレルギーを把握するため預かり保育に通常会員登録は必須。「ちょママ」など区内のママ団体にも声を掛ける。
Q：まず劇場に声をかけていく必要があるのではないかと？
A：まちサポの助成決定後、なるべく早く働きかけていく。



はじめて部門


決定

人生100年時代の第3ステージを
3分割（遊び、仕事、社会貢献）のライフスタイルで楽しく！

サンサン会

千代田区役所主催「ちよだコミュニティラボ」で企画、発足した活動。月1回、富士見区民館に集まり、定年後のライフスタイルや関心があるテーマについて1時間半のワークショップを行っている。参加者を募ることを目的に、フィットネストレーナーを招いて、個別指導を受けられる「若く見える歩き方」「アイデアが閃く歩き方」の2つのイベントを企画している。場所は同区民館の大会議室。チラシを作成し千代田区に関わる人たちに広く告知する。バランスのよい充実したシニアライフを語り合える場を提供したい。生き生きとしたシニアが増えれば、間接的に地域貢献にもつながるはず。マンション住民も気軽に参加できる地域活動へのニーズは高いと考えている。

Q：町会への参加は、住民にはハードルが高いのか？
A：地元の人と会社員との考え方の違いや、地域での人間関係の大変さもある。何とか垣根を越えてやっていきたい。
Q：女性の会員はいないのか？男女ともにいた方が楽しそうではないか？
A：今後5,6年後には、定年退職後の女性も増える。女性は地域に入りやすいが、男性は難しい。もちろん一緒にやりたいので、ワークショップでは働く女性の立場を考えたりもしている。




一般部門

1回目

区内各地域の歴史や文化、魅力を共有する
CCxTokyo (千代田で遊ぶ会)

多様性に富む千代田区の魅力や歴史文化を伝える。一緒に遊んで、在住・在勤者のつながりも深める。昨年、街歩きとして区内の各地域にテーマを持って探訪。地域にちなんだおやつ類（神田志乃多寿司、亀屋大和のお団子など）をお土産にするのが会の魅力。事前勉強会の「旅する図書館」では屋内での文化活動も行った。代表が富士見地区のマンションの方々と知り合い、交流会のご案内を手伝った。20代～80代まで、延べ100名が参加。飯田橋を巡る「歴史の現場を歩いてみれば」という街歩きでは、2・26事件の事などを学ぶ。上智大学の学生や東神田の方々が何度も参加。また「シテ方観世流」の鈴木啓吾氏に依頼し、上智大学とコラボしたお能の会も開催した。

Q：参加者の募集方法は？
A：広報紙の掲載や町内掲示板にチラシを貼っている。若い人にはSNSなどで知らせる。
Q：同じ街でもテーマを変えて歩く意味とは？
A：生まれ育った街でも知らないことが意外とあり、それを伝えると驚きや発見がある。
Q：代表個人でなくチームとしての取り組みや役割分担は？
A：企画する際のアイデアを出してもらっている。アンケートから課題を見つける。リピーターにも積極的に参加を働きかけたい。




はじめて部門

決定

教えて！世界のおうちごはん～あの国のおいしいをレシピに～
スプーン・プロジェクト

世界の食卓を紹介して文化交流を図る。それを基本にしたい。大使館の協力も得て、東京の外国人コミュニティとの連携を図り、食育を通じた交流を推進する。自国の家庭料理を紹介したいゲストを招き、料理の作り方とともに、家族、行事、習慣などにまつわるストーリーも共有してもらう。参加者は日本の文化も改めて確認し、身近なことから世界についても考えるきっかけになる。毎回異なる料理のレシピを配付し、それを持ち帰る楽しさも提供する。国際交流や食育に関心のある人は多く、暮らしの中で誰もが関わるテーマを通じ、在住・在勤・在学者、来訪者などの立場を超えたつながり構築の機会を創出する活動をしたい。地元コミュニティの発展にも寄与していきたい。

Q：メンバーと活動内容を教えてほしい。
A：現在メンバーは2人。日本の文化、相撲やお能のイベントも開催している。
Q：具体的に参加者はどう集めるのか？
A：1回目は知り合いに声をかける。2回目からは大使館、企業や職場に声をかけて集めたい。
Q：大使館への働きかけは、一般の人にはハードルが高い。どうアプローチするのか？
A：熱意で押し倒すしかない。英語力もあるので説得する。「食」は人をつなげる力があるので、それを生かしたい。




一般部門

1回目

上智大学生による日比谷の町周辺の調査と発信
上智日比谷発信プロジェクト

日比谷を世界に発信したい。周辺の多言語マップ作成により外国人観光の支援をする。中国語やドイツ語を話せるメンバーと、学生らしい、若者視点のマップを作りたい。上智大学の海外インターンシップの企画・運営をしているメンバーが有楽町の商店会長と出会ったことがきっかけ。大学も国際的なつながりがあるので、世界に発信していきたい。英語が堪能なメンバーも加わり、外国人にもマップと活動を広めることもできる。社会人との関わりもあり、アドバイスをもらうことも多いので、社会人レベルの活動もできると考えている。お世話になった社会人の方々から、まちづくりや地域活性化のスキルも教えていただいたので、それを生かしたい。

Q：日比谷100年通り商店会からの寄付はもう決まっているのか？まちサポの助成がなくても活動するのか？
A：寄付は決定している。助成がダメなら、また来年挑戦する。
Q：上智のインターンシップ団体との関わりは？
A：直接の関わりはないが、プレゼンのアドバイスを受けていたりする。
Q：日比谷の魅力とは何か？
A：歴史のある商店街で、サラリーマンの飲食の場所、日本料理店も多いのが魅力。



普請部門

経過報告

JR神田駅高架下で創業60年、
地域に愛され続ける「神田珈琲園」の再生
「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム

第18回千代田まちづくりサポート普請部門に応募した同グループは、2018年7月の一次審査、同年11月の二次審査を経て、2019年4月に追加審査を実施した。今回は、その後の経過報告を行い、助成が決定した。



MAP! 活動マップ



サンサン会

定年後の充実したライフスタイルを探る講座を開催！

スプーン・プロジェクト

自国の家庭料理を紹介するゲストを招き国際文化交流！



CCxTokyo (千代田で遊ぶ会)

街を知り、街を訪ねる！地域の魅力・歴史文化を伝える！

ちよとも

住民と働く人々の「はじめまして」の場をつくります！



上智日比谷発信プロジェクト

日比谷の魅力を多言語マップで発信する上智大学生です！

Chee's

千代田の魅力を発信する地図を作っていきます！



江戸長唄ごひいき衆

江戸の伝統・文化を知り、街に親しんでいます！



神田をワインの街にしようの会

ワイン祭りでコミュニティづくり。
旧今川中でブドウ栽培も！



「神田珈琲園」 再生プロジェクトチーム

神田駅高架下で創業60年！地域に愛され続けた「神田珈琲園」を再生



街角ライブ振興会

ライブ・イベントで連休・給料日前の飲食店に元気を！



エンターテインメント型保育

ロビーで子どもを預けて観劇！
預かり保育で参加型エンタメワークショップ



COMMENT

審査会委員講評

中島 直人 会長 | 東京大学大学院工学系研究科 准教授・博士(工学)



■ 江戸長唄ごひいき衆

質疑応答では、長唄には江戸(東京)の、それぞれの地域の風景や習慣が詠み込まれているという明確な回答がありました。そのような長唄を通じて、地域の歴史や個性に思いをはせるというのは、実に千代田らしい粋な取り組みだと思います。特に新規住民が増加し、コミュニティ形成が切実な課題となっている地域での活動に重点を置くということで、その成果が大いに期待されます。そのうえで、審査会委員としての勝手な希望を書かせていただくと、最後の活動成果発表会では、ぜひ長唄そのものを、少しでも味わってみたいものです。

■ サンサン会

人生の第3ステージをいかにすてきなものにするかは、現代社会において非常に重要な課題です。サンサン会は、その会の名称や3分割コンセプト(遊び、仕事、社会貢献)から感じ取れるある種の「ユーモア」を持って、楽しく、リラックスした姿勢でこの課題に向き合ってくれそうだと期待しています。参加メンバー間の交流を深めることと、新規メンバーを増やすことは一見、相反する方向性にも感じられますが、活動しているうちに「深めつつ開く」、いい塩梅が見つかるはずです。そして、できれば「はじめて部門」の次も見据えながら、この仲間的な活動と地域のまちづくりとの接点も探ってほしいと思います。

奥村 玄 副会長 | 株式会社 GEN プランニング 代表取締役



■ スプーン・プロジェクト

いろいろな国の人たちと「食」を通じて交流を深めることはとても面白いものである。「食」は多くの人にとって関心事であり、それぞれの国や地域の地理的な特徴や文化などについて、自然に会話が弾み理解し合える素晴らしい方法である。世界の広さを肌で感じると同時に日本を見直す機会にもなる。その楽しさをぜひ、発信してもらいたい。外国人と気軽に友達になることができるという機運が広がり、千代田のあちこちで交流の輪が生まれるとよい。

大使館を窓口にすることで、短時間だが外国文化と直接触れる貴重な体験となるであろう。大使館訪問記を聞くのも楽しみである。

■ 「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム

1957年に開業した「神田珈琲園」を継承・再生するプロジェクトのみなさんは、さまざまなハードルを越えて見事に助成金を獲得された。厳しい建築条件における歴史的なデザインや空間の継承、日常の憩いや催し物を通じてカフェが地域に根づいてきた生活文化の継承、そして事業の継続性について、重ねてきた多くの尊い議論が思い返される。デザインもきめ細かく練り上げられ、プレゼンターの後ろからは多くの人々の応援の声が聞こえてくるようだ。時代を見据えた新たな地域とのつながりにも期待が膨らむ。赤煉瓦のガード下で神田のDNAを伝える“特別な場所”であり続けていただきたい。おめでとうございます。

片岡 勝吾 委員 | 麹町五丁目町会 副会長



■ 上智日比谷発信プロジェクト

上智大学さんは第16回千代田まちづくりのサポート審査にエントリーされて以来です。多言語習得者が多数在籍しているという強みもあり訪日外国人をターゲットにした企画は前回と一緒にですが、全く異なる内容の挑戦でした。今回は災害時に色々な情報を訪日外国人伝えるという活動でしたが、今回は来年のオリンピックに向けて、多言語での日比谷界限マップを作成し、日比谷の街の発展に協力したいという思いで「日比谷100年通り商店会」様からも寄付金を頂きチャレンジしたいと応募されました。惜しくも今回は助成枠から外れてしまいましたが、若い力で頑張ってください。

柿内 健介 委員 | 千代田区青少年委員



■ 一般社団法人 神田をワインの街にしようの会

地域の活性化を、ワインを通じて行うというワイン好きには魅力的な活動をしているグループ。廃校になった中学校の校庭でワイン用のぶどうを栽培し、そのぶどうを使用したオリジナルワイン「神田ワイン」の企画は斬新である。そしてイベント開催期間にしか味わえない希少性も参加の動機付けにつながる。またぶどうの栽培に参加することでワイン好きに限定しない活動を仕掛けている。さらにイベント期間中の街の清掃活動や地域の飲食店のサポートも得て、まさに街ぐるみで盛り上げている実績は素晴らしい。都市再開発未開拓地域の魅力の再発見と参加者や参加飲食店など地域活性化とコミュニティの活性化に役立っていると実感する。

■ 街角ライブ振興会

神田の路地裏は土日祝日や大型連休は閑散期となる。そんな時期に街の飲食店を元気にしようとする取り組みは興味深い。ライブ演奏をすることでイベントを起こし集客の原動力としている。またそれを投げ銭で賄う企画もおもしろい。演者の協力者が増えていけば参加店舗も増えていくと思われる。今回は残念ながら助成対象とならなかったが今後も活動を継続していくことでより精度の高い事業計画が立つと考える。継続することで活動の認知度の向上と実績につながると思われる。

朝比奈 ゆり 委員 | 東京ボランティア・市民活動センター 専門員



■ ちよとも

応募用紙を読んで、ちよどもの開くワールドカフェにはさまざまな動機を持つ人が集まることに感心しました。興味や関心は異なっている、話し合ううちに、知り合いができたり、情報を得たり、次に進むきっかけを見つけています。その場に、最初から馴染める人ばかりではないと思いますが、ちよどもの皆さんの場の作り手としての役割が発揮され、上手に着地できているのだと思います。適度な距離感を保ちつつも、背中をそっと押してくれるそんな場が今、とても必要になっていると思います。これからも気負うことなく、一つ一つの場づくりを大切に、皆さんが活動を楽しんでください。今後に期待しています。

■ エンターテイメント型保育

子育てや演劇、地域での活動の経験、そしてこれまでに培ったネットワークを生かして、新たな取り組みを提案されました。劇場を活動のフィールドにした、いかにも千代田らしい企画です。子どものいる観劇ファンのニーズに応えるのはもちろんのこと、大人中心になりがちな劇場という交流の場に新風を吹き込むような、そんな可能性を感じます。劇場まで子ども同伴で出かけ、そして休憩時間中のロビーでは、親子や家族が楽しそうにおしゃべりする、そんな光景が劇場の日常に見られるようになったら、すてきだなと思いますし、劇場中にほんの少し寛容さが満ちるような気がします。劇場など関係者の信頼を得ることが先決と思いますが、追い風が吹きますよう、応援しています。

小田 和夫 委員 | 興産信用金庫 お客様支援部 シニア・チーフ・アドバイザー



■ C C x T o k y o (千代田で遊ぶ会)

今回、グループ名を変更されるも、昨年と同じ、千代田で「遊ぶ」をキーワードに応募され、千代田区の歴史、文化などの地域情報を参加者と共有することを目的にした「街歩き」、「勉強会」、「講座」などを、ほぼ毎月開催されています。また回数を重ねるごとに認知度もあがり、リピーターが増えるなど参加者も安定し、さらに他のグループ、大学等と連携を図り、活動の範囲が前回に比べ大きく広がっています。

しかしながら、例えば、地域の魅力をより多くの方に伝えるために今後どう活動するのか、また参加者との情報共有や、勉強会、講座などの活動実績をどう発展させていくのか、あるいは現在の活動を他のグループの「まちづくり」とどうつなげていくのかなど、グループとしての今後の施策・展望について、やや不明瞭な印象を受けました。

とは言え、貴会が、これらの課題を解決されながら、引き続き、千代田で「遊ぶ」と「学ぶ」を共に堪能でき、また人を「結ぶ」貴重な場を提供され、さらに他のグループと連携したネットワークづくりに心より期待したいと思います。

依田 昭夫 委員 | 千代田区 コミュニティ総務課長



■ Chee's

webメディア「Chee's サイト」が今回の助成によるリニューアルを経て、取り上げる情報を彩るデザインもさらに洗練され、ますます魅力的になると期待される方は多いと思います。

他の活動グループは、特定多数の方々を対象にしているのに対し、「Chee's」は、すでにこのサイトを活用し、プラットフォームの役割を担い、不特定多数の方々を結ぶ可能性と発展性があるところに最大の強みを感じました。この媒体を利用していろいろな活動とリンクしていく中で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の来訪者をも魅了し、「千代田区という街の面白さを発信」し続けて欲しいと思っています。今後とも、さまざまな活動団体や個人等との関係性を深め、地域課題の解決を図るプラットフォーマーとして活躍していただきたいと願っています。

〔総評〕

審査会会長 中島 直人



皆さん、発表お疲れさまでした。そして助成決定おめでとうございます。昨年度の成果発表会でも申し上げましたが、ここ数年で応募グループの活動の仕方が変わり、その一つに「各グループ間のコラボレーションが盛んになっていること」が挙げられます。自分たちの活動を盛んにするためにさまざまなグループとつながり、多様で特色ある活動のコラボレーションが増えてきたと、今日も実感しました。

ほとんどのグループが他のグループとコラボレーションする活動があるようで、今年も非常に期待しております。コラボレーションをつなげることを意識してやっているグループもあり、盛んなコラボレーションをより促進・蘇生しているわけです。今回3回目の助成を受ける「Chee's」さんや「神田をワインの街にしようの会」さんは、積極的に他のグループに声をかけていただきたいと思います。

「江戸長唄ごひいき衆」さんは、今回助成2回目ですが、実は私は、応募用紙を読んだ段階では「どうかな?」と疑問に思っていたのです。それは、「江戸」「千代田区」という大きな地域が「長唄」というものとどう結びつくのか分らない、と感じたのですが、今日の説明を聞いてみると、かなりローカルな所からも人々を呼び込まれていて、非常におもしろいと思いました。2回目なので、来年の助成3回目も目指せるような活動に展開できるよう頑張ってください。

「ちよとも」さんは、非常に千代田区らしい助成1回目の活動で、質疑応答でも申し上げましたが、敷居が低く気軽な参加を強みとして活動するというのは、とても大事です。今日の発表を聞いていると、本当に参加したくなるような気がしました。その“感じ”をぜひ忘れないようにして、自分たちの強みを伸ばして行ってほしいと思います。

「エンターテイメント型保育」さんは、グループの新しい活動の仕方というべきか、千代田まちづくりサポートを活動スタートのステップアップに使っていただき、本当に必要なサービスを作って、やがてビジネスへも広がって行くものと思います。そうなれば、この「まちサポ」にとっても大きな成果となります。来年は応募しなくても良いですね(笑)

助成1回目を目指した他の3つのグループに関しては、3回目のグループに積極的に声をかけて一緒に、また自分たちのグループとしても、引き続き活動してほしい。

「はじめて部門」の2つのグループは、このような場に出席して多様なグループの活動発表を聞き、体験されたことで得ることも多かったと思います。引き続き、今後の中間発表会や成果発表会にも、ぜひ参加くださるようお願いします。

そして普請部門「神田珈琲園」さん、ついに助成が決定です。完成したら私も珈琲を飲みに行きたいので、これから頑張ってください。最後に、今日参加して下さった皆さま、運営してくださった皆さま、お疲れさまでした。ありがとうございました。

JOIN US!

あなたもまちサポに参加しませんか？

千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区を元気ある、住み良い魅力的なまちにしようと市民レベルでがんばっているまちづくり活動や、これから始めようとするまちづくり活動を応援します。初動期のまちづくり活動を支援する「はじめて部門」と3年間にわたって助成する「一般部門」、「テーマ部門」、まちの居場所・会所づくりを支援する「普請部門」があり、在住・在勤などの枠を超え、多様なまちづくり活動を支援します。



まちサポ特設サイト

詳細はこちら！

\\CHECK! /

毎年5月頃、募集
チラシ・ポスターを公開！



海老原商店を活かす会代表の
海老原義也さん

MESSAGE

今年設立4年目を迎える「まちプラ(=千代田まちづくりプラットフォーム)」は、市民のまちづくり活動のさらなる普及と拡大を図るため、公益財団法人まちみらい千代田と「千代田まちづくりサポート」を共同運営しています。

まちサポ卒業生や元審査会委員など、千代田区とまちづくり活動が大好きなメンバーが集まり「千代田のまちをもっとおもしろく、もっと魅力的にしていきたい！」そんな思いで日々まちづくりをがんばっているひとたちを応援しています。

地域をサポートするひとつひとつの小さな活動の集まりが、千代田区の元気を支えている。そんな人たちをぜひ知ってほしいという思いから、この小さな冊子を作りました。これからの千代田のまちづくりにご期待ください。

一般社団法人 千代田まちづくりプラットフォーム

千代田まちづくりサポート通信 No.34

2019年10月 発行

発行：

公益財団法人 まちみらい千代田

協働まちづくり・総務グループ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア4階

TEL.03-3233-7556

FAX.03-3233-7557

<https://www.mm-chiyoda.or.jp>

E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp

編集：

一般社団法人

千代田まちづくりプラットフォーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア4階

編集委員：

高道昌志(編集長)、市川達夫、本郷寛和

発表要約：

柏原怜子(編集室 風葉舎)

アートディレクション/デザイン：

和気明子(FUTURE`S)

公益財団法人まちみらい千代田 賛助会員一覧(敬称略)

[法人会員]

建設業	一般社団法人改修設計センター	保険業	株式会社 FEA	その他	東洋美術印刷株式会社
	株式会社楠山設計		日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店		NPO 都市住宅とまちづくり研究会
	株式会社久保工		エヌティティ都市開発株式会社		日産緑化株式会社
	株式会社竹中工務店	不動産業	協永ソフトウェアエンジニアリング株式会社		株式会社日昇緑化研究所
製造業	(一社)東京都建築士事務所協会千代田支部		住友不動産株式会社	個人会員]	株式会社日精ビーアール
	株式会社ナカノフード建設		天翔ビルディング株式会社		ノーラエンジニアリング株式会社
	パシフィックコンサルタンツ株式会社		東京建物株式会社		株式会社バイオレンジャーズ
	KKテクノロジー株式会社	サービス業	プラットフォームサービス株式会社		ビヨンドネクストアカウンティング株式会社
卸売・小売業	潮味証券印刷株式会社		三井不動産株式会社	法人：60 個人：15 計：75	株式会社フィレール
	東京スクリーン株式会社		三菱地所株式会社		一般社団法人マンション管理組合支援センター
	株式会社ハセッパー技研		安田不動産株式会社		株式会社リブリッジ
	ハネクトーン早川株式会社	その他	株式会社 i-tec24		株式会社ワンサイン
情報通信業	富士ゼロックス株式会社		株式会社弘周舎	2019年 10月現在	
	株式会社ムレコミュニケーションズ		株式会社こどもの館		
	鈴木治作株式会社		株式会社翔設計		
	鈴新株式会社	その他	株式会社アズーム	他 5人	
金融業	株式会社つばさテクノ		株式会社イサミヤ		
	株式会社トキワ		有限会社エイアイ企画		
	株式会社ユニフォームネット		ゴージャージャパン株式会社		
金融業	株式会社メディアリンク	その他	株式会社コンベンションリンケージ	他 5人	
	株式会社きらぼし銀行神田中央支店		株式会社住宅あんしん保証		
	興産信用金庫		株式会社すくらネット		
	西武信用金庫神田支店		株式会社 TALO 都市企画		
金融業	みずほ信託銀行株式会社	その他	一般社団法人千代田区観光協会		